

「えっ、こんなに…」家に届いた一通の封筒の中を見て父はとても驚いた。その封筒は自動車税のお知らせであった。驚いた理由はそのお知らせに記載されていた金額である。今年我が家の車は、新しい車になった。それによって納税額が、昨年と比べ、なんと約四分の一になったというのである。

地球環境にやさしい低燃費の車に対する減税措置である「エコカー減税」、我が家の新しい車が適応対象となった。購入時の免税、さらには自動車税も優遇されるいい制度だと父は大喜びだ。しかし父とは逆に、喜んでばかりいられないのではないかと思う僕がいた。なぜなら、今の日本は、歳入の約半分が国債等の借金で成り立っているからである。この事は、僕たちが当たり前のように利用している道路や橋、警察や消防、学校や医療等の公共サービスを維持する費用の半分は借金であるという事でもある。その上、「減税」などによってさらに税を安くし、国の収入を減らすとはどういう事なのか、僕には理解できない。

しかし、そんな僕の考えを、ある日の新聞記事は変えてくれた。この「エコカー減税」は確かに車を買いやすくする国の施策である。それも国として普及をさせなければならぬ環境にやさしい車のみを対象としている。これによりエネルギーを節約することができ、さらには地球温暖化を防ぐ手助けとなるのである。車がいやすくなり、さらに温暖化防止の手助けとなるのであれば購入意欲もわくだろう。しかし、これだけではない。自動車が売れば自動車会社はもちろんの事、その関連する会社は利益が上がる。そしてその利益は会社の投資や従業員の給与等となり、世の中に還元され景気がよくなるのである。景気が良くなれば国民はお金を使う。「環境対策」だけではなく、「景気対策」でもあるのだ。そして最終的には会社の利益や僕たちの買い物などから直接的、間接的に税は徴収されていくことになるのである。この新聞記事は僕の税というものの見方を変えてくれた。税はただ単に福祉や公共サービスを維持するためのものだけではなく、環境問題や、経済問題さえも解決する手段の一つとなり得るということだ。

この秋、消費税率の引き上げについて判断されるようである。賛成、反対、様々な意見が交わされている。この判断がどう社会に影響を及ぼすのか、どう税の力が働きどんな問題を解決するのか、僕は僕なりに考えてみたいと思う。そうすることによって、いろいろな働きをする税の力というものを、より身近に感じることができるようになるだろう。税の力が国民一人一人に公平に行き渡り、今日、そして未来がより良いものとなるよう、僕は願っている。